

# ルードルフ・ヒルファディング邦文研究目録

## はじめに

以下は、幾つかのルードルフ・ヒルファディング研究書の参考文献を合体したもので、それを渡辺理さんに整理して貰った。同氏は、その過程で、元になる物が随分ずさんです、ということであった。

改善しなければならないと思ったが、急に、ホーム・ページにアップすることになったので、あまり直さないで出す。今後、研究者によって改善を期待したい。今 見直してみると、重複もある。著者別に並べた。

## 欧文資料で翻訳あるもの

Fred Oelßner

Vorwort zur Neuauflage : Rudolf Hilferding, Das Finanzkapital (Dietz Verlage, Berlin, 1955)

P. M. Sweezy

The Theory of Capitalist Development, Principles of Nasxian Political Economy. (Monthly Review Press, 1942, 1970) (都留重人訳『資本主義発展の理論』新評論、1967年)。

The Present as History, Essay and Reviews on Capitalism and Socialism (Monthly Review Press, 1953)

W. Gottschaloh

Strukturveränderungen der Gesellschaft und Nabbisches Haneleln un des Lehre von Rudolf Hilferding (Duncher & Humboldt, Berlin, 1962) 保住敏彦・西尾共子訳『ヒルファディング』  
(ミネルヴァ書房、1973年)

Giulio Pietranesa

"R. Hilferding und die ökonomische Theorie des Sozialdemokratie" (Merue Verldg, Berlin, 1974)  
長坂聰・河野裕康訳『ヒルファディングと現代』(ありえず書房、1980年)

Bauer, Otto

Die Nationalitätenfrage und die Sozialdemokratie, in : *Marx-Studien*, Bd. 2, Wien 1907.  
『民族問題と社会民主主義』お茶の水書房

*Die Voraussetzungen des Sozialismus und die Aufgaben der Sozialdemokratie*, Stuttgart 1899.  
翻訳あり

A. A. Berle & G. C. Means, *The Modern Corporation and Private Property*, New York, 1932. (北島忠男訳『近代株式会社と私有財産』文雅堂書店、1974年)。

D. Harvey, *The Limits to Capital*, Oxford: Blackwell and Chicago: University of Chicago Press, 1982. (松石勝彦・水岡不二雄他訳『空間編成の経済理論』[上][下]大明堂、1989年)。

K. Kautsky, *Gold, Papier und Ware*, Die Neue Zeit, 29 Jg. Bd. 1, 1910/11. (向坂逸郎・岡崎次郎訳『貨幣論』改造社、1973年)。

O. Jeidels, *Das Verhältnis der deutschen Grossbanken zur Industrie mit besonderer Berücksichtigung der Eisenindustrie*, Leipzig, Verlag von Duncker & Humblot, 1905. (長坂聡訳『ドイツ大銀行の産業支配』勁草書房、1984年)。

R. Fitch & M. Oppenheimer, "Who Rules the Corporations?" *Socialist Revolution*, vol. 1, No. 4, 5, 6, 1970-1971. (岩田巖雄・高橋昭三『だれが会社を支配するか——金融資本と「経営者支配」』ミネルヴァ書房、1978年)。

トラハテンベルグ (川崎巳三郎訳『現代の信用及び信用組織』叢文閣、1936年)。

マルコフ「ヒルファディングによって『仕上げられ』たるマルクスの信用理論」(河野重弘訳『貨幣及び信用理論』共生閣、1931年)。

ローゼンベルク (梅村二郎訳『資本論注解』開成社、1956年)。

V. P. Carosso, *Investment Banking in America ; A History*, Harvard U. P. Cambridge. 1970, 日本証券経済研究所訳「アメリカの投資銀行」(上)(下)(『証券研究』第55、56巻、1978年)。

V. P. Carosso, *Investment Banking in America ; A History*, Harvard U. P. Cambridge. 1970, 日本証券経済研究所訳「アメリカの投資銀行」(上)(下)(『証券研究』第55、56巻、1978年)。

## 1. ルードルフ・ヒルファディングの書いたものの番訳

黒滝正昭訳「Hilferding : 一九二一年——通貨・財政政策と「社会化」——」(『阪南論集 社会科学編』18巻4号 1983年)

保住敏彦訳「ルドルフ・ヒルファディング『社会化と諸階級の勢力関係』(1920年10月5日第1回経営協議大会での報告)」(『愛知大学法経論集 一経 済・経営篇I』第93号、1980年)。

『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』で翻訳されたヒルファディングの作品  
オーストリアにおける農業監督(石原訳)(1号、1987年10月)

経営内の奴隷制（倉田訳）（4号、1988年7月）  
アメリカの実験（倉田訳）（7号、1989年7月）  
銀行資本への降伏（倉田訳）（15号、1992年）  
財政上の帝国破壊（倉田稔「ドイツを逃れる R・ヒルファディング 1933年前半」  
（『人文研究』72、1986年9月、所蔵））

プラハ綱領（\*）（アーベントロート著、広田・山口訳『ドイツ社会民主党小史』ミネ  
ルヴァ書房、付録所収191～203ページ）

（\*）これは SPD 幹部会の署名であるが、執筆はほとんどヒルファディングである。  
なお、倉田 稔・上条 勇編訳『R・ヒルファディング文献リスト 現代資本主義論』  
（新評論）に、資本主義発展の固有の法則性（上条訳）、社会化と諸階級の力関係（倉  
田訳）、現代の諸問題（上条訳）、共和国における社会民主主義の任務（倉田訳）、  
経 済に関する社会権力か私的権力か（上条訳）、一九三五年の経済（倉田訳）、時代  
と課 題（倉田訳）、大概正策の根本原理（倉田訳）、歴史の問題（上条訳）、が入っ  
ている。

これら以外の本邦翻訳については、『ヒルファディング 現代資本主義論』 23  
9～240ページを見よ。

なお、次のものがある。

信用恐慌の諸問題（上条勇「[翻訳]R・ヒルファディング「信用恐慌の諸問題」 「社  
会 主義と所有」（『金沢大学教養部論集・人文科学篇』21 1983年））

## 2. ルードルフ・ヒルファディングの研究書 ・論文その他

・邦文献目録（著者五十音順）

相田慎一

「修正主義論争——いわゆる崩壊理論をめぐって」（古沢友吉・他編『講座・経済学史』  
（IV）同文館、1977年）。

相原 茂

「マルクス経済学の批判と反批判」（『経済学説全集』7、河出書房、1955年）

赤川元章

「ヒルファディングの経済学方法論」（１）～（３）——オーストロマルクス主義とヒルファディング——」（『三田商学研究』 21巻2号、1978年6月； 21巻 3号、同8月； 22巻1号、1979年4月）

秋山実

「独占資本主義とインフレーション」（『経済』第127号、1974年）。

新井厚志

「ヒルファディング信用論についての覚え書——《金融資本論》研究のための予備的考察」（関東学院大学『経済学研究科紀要』第3号、1977年5月）。

「ヒルファディング信用恐慌論について」（１）（２）（同上、4、1977年11月；

5、1978年6月）

「ヒルファディング信用恐慌論について」（『経済学』120、1976年6月）

荒井正夫

『信用の基礎理論』未来社、1967年。

有井行夫

「金融資本モデルと株式会社論の特殊性——ヒルファディング株式会社論の方法的分析」（駒沢大学『経済学論集』第9巻4号、1978年）。

「株式会社と資本の人格化」（駒沢大学『経済学論集』第11巻3・4号、1980年）。

「ヒルファディングとマッハ——『金融資本論』の方法」（駒沢大学『経済学論集』9巻 1号、1977年6月）

「独占資本主義論における「構造」と「歴史」——森岡孝二著『現代資本主義分析と独占

理論』によせて——」（『経済論集』（関西大）33巻2号）

『株式会社の正当性と所得理論』青木書店、1991年。

有田厚志

『過剰資本論序説』日本評論社、1977年。

アレキサンダー・シュタイン

倉田稔訳『ヒルファディング伝』成文社、1988年。

飯田 繁

「ヒルファディング信用理論」（『講座・信用理論体系Ⅲ』学説篇、日本評論社、1955年）。

「ヒルファディングの信用理論」（『講座信用理論体系』Ⅳ、日本評論社、1956年）

「ヒルファディングの信用理論」（『講座・信用理論体系』第3部学説篇、日本評論社、

1995年)。  
「貨幣の必然性——流通主義に対する一批判」(大阪市立大学『経済学雑誌』第19巻4・5号、1948年)。  
「貨幣資本と利子つき資本——ヒルファディング『資本信用』論にたいする一批判」(『バンキング』第107号、1957年2月)。

#### 飯田裕康

「ヒルファディング株式会社論にかんする一考察」(『三田学会雑誌』第57巻第1号、1964年1月)  
「ヒルファディング経済学における理論と歴史——『金融資本論』の学説史的評価をめぐって——」(『三田学会雑誌』62巻7号、1969年7月)  
「ヒルファディングの信用論」(『三田学会雑誌』第67巻第9号、1974年9月)  
『信用論と擬制資本』(有斐閣、1971年)  
「帝国主義研究の現状——(Ⅱ)最近におけるヒルファディング研究の動向」(『経済学史学会年報』18号、1980年)  
「信用構造の展開——金融資本の形成と信用制度」(生川栄治編『現代の金融資本』有斐閣、1976年1月)。  
「流通信用と資本信用」(『マルクス経済学の基礎知識』有斐閣、1976年)  
『貨幣・信用論』同文館、1976年  
『ヒルファディング金融資本論入門』有斐閣新書、1977年(鈴木芳徳・野田弘英・高山満とともに)  
「ヒルファディングにおける貨幣と信用」(1)(2)(『三田学会雑誌』70-6、1977年12月；72-2、1979年4月)  
「最近におけるヒルファディング研究の動向」(経済学史学会『年報』18、1980年)  
「『金融資本論』における信用論——ヒルファディングの帝国主義把握との関連において」(『三田学会雑誌』第67巻9号、1974年)。  
『貨幣と信用の理論』三嶺書房、1985年。  
飯田裕康：[書評：アレキサンダー・シュタイン『ヒルファディング伝』](日本ドイツ学会ニュース8号、シンポジウム"Gesprach mit Deutschland"報告)。  
飯田裕康・他編『ヒルファディング金融資本論入門』有斐閣、1977年。  
「信用の必然性——方法論的一考察」(川合一郎編『現代信用論』(上)、有斐閣、1978年)。

#### 池上梓

『国家独占資本主義論』有斐閣、1995年。  
「『ブルジョア社会の国家形成への総括』とは何か——マルクス主義財政学の方法に関する一考察」(京都大学『経済論叢』第97巻4号、1966年)。  
「国家独占資本主義論争と経済学批判体系における国家」(加藤睦夫・他編『現代資本主義と国家』有斐閣、1976年)。

#### 生川栄治

『イギリス金融資本の成立』(有斐閣、1956年)  
「金融資本の概念と銀行」(『バンキング』102、1956年9月)  
「金融資本の概念とその発展について」(大阪市立大学『経営研究』第41号、195

9 年)。

『現代銀行論』日本評論社、1960年。

「金融資本」(宇佐美誠次郎・他編『マルクス経済学講座』(2)、有斐閣、1963年)。

「金融資本と信用制度」(1)(2)、(大阪市立大学『経営研究』第113・114号、1971年)。

「資本信用と信用制度」(一橋大学『経済研究』第23巻1号、1972年)。

「管理通貨制度の必然性」(大阪市立大学『経営研究』第27巻4・5・6合併号、1977年)。

「中央銀行・金属準備・再生産」(大阪市立大学『経営研究』第28巻5号、1978年)。

「交互計算信用と発行業務——独占期の銀行信用と擬制資本」(1)(2)(大阪市立大学『経営研究』第29巻6号、1979年；第30巻1号、1979年)。

「金融資本の論理構造」(大阪市立大学『経営研究』第30巻3・4合併号、1979年)。

「ドイツ大銀行の産業関係」(大阪市立大学『証券研究年報』第1号、1986年)。

「擬制資本と証券市場」(大阪市立大学『経営研究』第35巻第2号、1984年)。  
生川栄治編『現代の金融資本』有斐閣、1977年)。

諫山正

「『資本の過剰』と資本輸出」(『新潟大学経済論集』第3号、1968年)。

石崎昭彦

『アメリカ金融資本の成立』東京大学出版会、1962年。

居城弘

「信用制度と株式会社」(松井安信編『信用と外国為替』ミネルヴァ書房、1978年)。

「第一次大戦前ドイツ信用制度に関する覚え書」(静岡大学『法経研究』27巻4号、1979年)。

一ノ瀬秀文

「現代金融資本における所有と支配——それをどのように分析してはならないか」(林直道・他編『講座・史的唯物論と現代』第4巻b、青木書店、1978年)。

市原健志

「カウツキーとヒルファディングの帝国主義論の相違について」(『商学論纂』18(4)、1976年11月)

伊藤 武

「ヒルファディング信用理論の検討」(『大阪経大論集』第76号、1970年)

『マルクス信用論の解明』法律文化社、1982年。

伊藤宏之

「階級および階級闘争——その政治経済学的基礎についての覚え書」（『講座・資本論の研究』第4巻、青木書店、1980年）。

伊藤陽一

「現代日本の階級構成と資本家——統計分析の視角から」（経済理論学会編『現代資本主義における階級』第15集、1978年）。

猪俣津南雄

『金融資本論』（希望閣、1925年；改造文庫、1929年；彰考書院、1948年）

「資本論の続刊と云はれるヒルファードィングの『金融資本独裁論』（野依秀市編『マルクス主義十八講』秀文閣、1930年）

入江節次郎

『帝国主義論序説』（ミネルヴァ書房、1967年）

『帝国主義論への道』（ミネルヴァ書房、1973年）

入江節次郎・星野中他

『帝国主義論の方法——諸理論の分析と展望——』（「社会科学」（同志社大学人文科学研究所）別冊、1969年）

入江節次郎・星野中編

『帝国主義研究Ⅰ 帝国主義論の方法』（お茶の水書房、1973年）

『帝国主義研究Ⅱ 帝国主義論の古典的学説』（お茶の水書房、1977年）

岩田弘

「株式資本と金融資本」（1）（2）（3）（立正大学『経済学季報』第12巻1・2号、1962年；第13巻1・2号、3・4号、1963年）。

『世界資本主義』未来社、1964年。

岩見昭三

「銀行資本と銀行支配——『金融資本論』の一考察——」（大阪市立大学『経済学雑誌』第80巻第1号、1979年5月）。

岩見 徹

『ドイツ恐慌史論』有斐閣、1985年。

ヴァルカ

「独占形成の諸問題と組織された資本主義の学説」（『世界経済年報』第7集、そう文

閣、  
1930年)

H・A・ヴィンクラー

「ヒルファディング組織資本主義論への序説」(ヴィンクラー編、保住裕康ほか訳『組織された資本主義』名古屋大学出版会1989年3月)

ヴォイチンスキー

『歴史を生きる——わが生涯の回想』論争社、1961年

上田慧

「現代企業における所有と支配——1960年代末のアメリカにおける論争を中心に」  
(『大阪大論集』第22号、1975年)。

上野俊樹

『経済学とイデオロギー』有斐閣、1982年。

上林貞治郎

「『資本論』と修正主義「理論」」(『経済』37、1967年5月)

宇野弘蔵

「貨幣の必然性」(『資本論の研究』岩波書店、1949年)

『経済学方法論』(東京大学出版会、1962年)

『経済政策論』(『宇野弘蔵著作集』7巻、岩波書店、1974年)

「経済学における原理論と段階論——『金融資本論』における両者の混同について——」  
(『宇野弘蔵著作集』9巻 経済学方法論 岩波書店、1974年)

「貨幣の必然性——ヒルファディングの貨幣理論再考察」(『社会科学』、1930年；  
『宇野弘蔵著作集』(3)、岩波書店、1973年)。

『経済原論』(上)(下)岩波書店、(上)：1950年、(下)：1952年(『宇野弘蔵著作集』(1)、1973年)。

『恐慌論』岩波書店、1953年(『宇野弘蔵著作集』(5)、1974年)。

『経済政策論』弘文堂新社、1954年(『宇野弘蔵著作集』(7)、1974年)。

「マルクスの価値尺度論について」(『思想』第483号、1964年；『宇野弘蔵著作集』  
(4)、1974年)。

『「資本論」と社会主義』岩波書店、1958年(『宇野弘蔵著作集』(10)、1974年)。

「経済学における原理論と段階論——『金融資本論』における両者の混同について」(『思想』  
第433号、1960年；『宇野弘蔵著作集』(9)、1974年)。

『経済学方法論』東京大学出版会、1962年(『宇野弘蔵著作集』(9)、1974年)。

宇野弘蔵編『資本論研究』(1)、筑摩書房、1967年。

宇野弘蔵監修『講座・帝国主義の研究』(1)、青木書店、1973年。

馬渡尚憲

「株式資本論の問題点」（法政大学『経済志林』第38巻第3・4号、1971年1月）。

海野八尋

「独占価格論」（金子ハルオ編『マルクス主義研究入門』（3）、青木書店、1974年）。

エルスナー

「ヒルファディング『金融資本論』における功績と誤謬」（林訳『金融資本論』改訂版、大月書店、1961年）

遠藤湘吉

「株式会社の機能について」（東京大学『社会科学研究』第10巻第5号、1959年3月）

「金融資本論の現代的意義」（『現代の理論』2、大月書店、1959年6月）

大泉英次

「ヒルファディングにおける独占価格と物価変動論」（『金融学会報告』第54号、1982年）。

大内力

大内力編『資本論講座』（7）、青木書店、1964年。

大内兵衛

「ヒルファディング『金融資本論』」（『大内兵衛著作集』9、岩波書店、1975年）

大形太郎

『マルクス主義貨幣論』岩波書店、1948年

大島 清

「ヒルファディング」（『経済学説全集 第8巻 マルクス経済学の発展』河出書房、1956年）

「ヒルファディング」相原茂編『マルクス経済学の発展』（『経済学説全集』第8巻、河出書房、1958年）。

大島通義

「ヴァイマル共和制末期における財政破綻」（『アナリスト』〔経済発展協会〕14-3、1968年3月）

大島雄一

『価格と資本の理論』未来社、1965年。

太田仁樹

「古典的帝国主義論における世界経済把握」（上・下）（名古屋大学『経済科学』32巻 2号・3号1984年12月・1985年3月）  
「帝国主義論と資本論——ヒルファディング金融資本論とレーニン帝国主義論」（岡山大学『経済学会雑誌』18・4、1987年3月）  
『レーニンの経済学』岡山大学経済学研究叢書第7冊、1989年。

大西威人

「『金融資本論』独占論の理論的特徴について」（大阪市立大学『経済学雑誌』第80巻 第3号、1979年）。

大野英二

『ドイツ金融資本成立史論』（有斐閣、1956年）  
『ドイツ資本主義論』（未来社、1965年）  
「ヒルファディングとシュトラッサー」（『経済学論叢』第105号、1970年3月）  
「ドイツにおける帝国主義論の展開——『資本類型』とヒルファディング『金融資本論』の理論構成——」（内田義彦他編『経済学史講座』Ⅲ、有斐閣、1955年）  
『現代ドイツ社会史研究序説』岩波書店、1982年

大野節夫

「ドイツ社会民主党の帝国主義論の特徴」（『研究年報経済学』第23巻第3・4号、1972年）  
「ヒルファディングの価値論について」（同志社大学『経済学論叢』第21巻第3・4号、1973年9月）

近江谷左馬之介

「ヒルファディングの『創業利得』について」（一）（二）（九州大学『経済学研究』第25巻第4号1960年3月、同第26巻第3号同9月）

大矢繁夫

「『金融資本』をめぐる一つの理論問題——金融資本と擬制資本・証券市場に関する研究（1）——」（西南学院大学『商学論集』第32巻第2号、1985年）。  
「擬制資本・証券市場と信用——金融資本と擬制資本・証券市場に関する研究（2）——」（西南学院大学『商学論集』第32巻第3号、1985年）。  
「ヒルファディングの金融資本論についての一考察」（東北大学『経済学』第38巻4号、1977年3月）。

岡崎次郎

「『金融資本論』1947年新版へのエルスナーの序文概要」（『金融資本論』（上）岩波文庫）  
「ヒルファディングと『金融資本論』とについて」（『金融資本論』上、岩波文庫、1982年）

岡橋 保

「紙幣の価値について」（『銀行研究』1957年3月）  
「流信用論——ヒルファディング信用論の研究」（『金融経済』第156号、1976年2月）。  
「ヒルファディングの貨幣論」（『大阪学院大学商経論叢』第4巻4号、1979年1月）。  
「貨幣論から信用論へ」（1）～（3）（同上、5-1、1979年5月；5-2、同7月；5-4、1980年1月）  
「貨幣論から信用論へ（I）——ヒルファディング貨幣論・信用論研究（2）」（『大阪学院大学商経論叢』第5巻2号、1979年）。  
「商業手形と銀行券——その差別性と同一性」（『大阪学院大論集』第25・26合併号、1975年）。

岡部利良

「ヒルファディング創業利得説の批判序説」I II III（京都大学『経済論叢』第82巻第6号1958年12月、第83巻第4号1959年4月、同第6号同6月）  
「ヒルファディング創業利得税の批判——創業利得における平均利潤の問題——」（京都大学経済学部創立40周年記念『経済学論集』有斐閣、1959年）。

荻田誠一

「ヒルファディングの資本輸出論の構造」（『研究年報』〔奈良短大〕26-1、1978年8月）

尾西正美

「経済民主主義と組織された資本主義」（『社会科学論集』〔埼玉大〕41、1978年3月）

小野朝男

「流通主義的貨幣理論の一考察」（『バンキング』第181号、1963年4月）  
「ヒルファディングの信用論——流信用と資本信用——」（和歌山大学『経済理論』第207号、1985年）。  
「貨幣の必然性——資本論における『交換過程』の理論をめぐって」（和歌山大学『経済理論』第22号、1954年）。  
小野朝男他『現代社会における国家と企業——『金融資本論』研究を中心として——』（和歌山大学経済学部、1984年）。

小淵 港

「ヒルファディングの組織資本主義論と財政民主主義」（『経済論叢』126-3・4、

1980年10月)  
「ヒルファディングと経済民主主義」（『経済科学通信』〔基礎経済科研究所〕20、  
1977年10月）

海保幸世

「商業信用・引受信用・銀行信用（2）——諸説の源流」（上）（下）（北海学園大学  
『経済論集』第27巻1号、1979年；第28巻3号、1981年）。  
「『自由貿易帝国主義』論小考——『経済学批判体系プラン』と植民地」（北海学園大  
学 開発研究所『開発論集』第28号、1979年）。  
「世界市場把握と国際間商業信用——木下・村岡両氏の所説の検討を中心にして」（北  
海 学園大学『経済論集』第28巻4号、1981年）。

カウツキー

『金融資本と恐慌』（笠沢、そう文閣、1928年）  
『貨幣論』（向坂・岡崎訳、改造社、1934年）

カズロフ編

『貨幣と信用——資本主義編』（米村訳、ナウカ社、1933年）

片山伍一

「配当と創業者利得」（『経済学研究』第37巻合併号[1～6号]、1972年2月）  
「ヒルファディング『創業者利得』の定式について」（九州大学『経済学研究』第38  
巻 合併号[1～6号]、1973年3月）  
「『配当の利子化』について」（九州大学『経済学研究』第42巻第1～6号、197  
7 年）。

片山伍一、後藤泰二編著

『経営財務論』ミネルヴァ書房、1985年。  
『現代株式会社の支配機構』ミネルヴァ書房、1983年。

加藤義忠

「ヒルファディングの流通経済論の検討」（関西大学『商学論集』24巻2号、  
1979年6月）

金森敬史

「『金融資本論』と帝国主義研究の方法」（『社会経済研究』〔広島大・大学院〕7、  
1979年11月）

金田重喜

「いわゆる内部金融論と金融支配消滅論について」（京都大学『経済論叢』第87巻5  
号、1961年）。  
「最近のアメリカにおける金融資本論争」（『経済』第102号、1972年）。

「金融資本論」（芝田進午・他編『講座・マルクス主義研究入門』（3）、青木書店、1974年）。

鎌田正三

『アメリカの独占企業』時潮社、1956年3月

「金融資本」（『金融論講座』I、有斐閣、1964年12月）

「株式会社金融再論」（『研究年報経済学』第28巻第2号）

「株式会社金融再論——創業利得に関する研究ノート」（東北大学『経済学』第52号、1959年）。

「金融資本と株式会社」（玉城肇・他編『マルクス経済学体系』（下）、岩波書店、1957年）。

上条 勇

『ヒルファディングと現代資本主義』（梓出版社、1987年）

「『金融資本論』と『組織された資本主義論——方法論的序説』」（『経済学研究』（北大）

31巻1号、1981年）

「ヒルファディング『金融資本』概念の再検討」（『経済学研究』（北大）32巻3号、1982年）

「帝国主義論史におけるヒルファディング——星野中・保住敏彦両氏の所説をめぐって」（『金沢大学教養部論集・人文科学篇』22巻1号）

「ヒルファディングの『組織された資本主義』論（1）、（2）、（3）、（4）」（『経済学研究』（北大）27巻2号～28巻4号、1977年～1978年）

「第一次大戦とヒルファディングの帝国主義論」（北海道大学『経済学研究』第26巻3号、1976年）。

「ヒルファディングの『組織された資本主義』論」（1）～（4）（同上、27-2、1977年5月；27-3、1977年8月；28-2、1978年6月；28-4、1978年11月）

「第一次大戦前夜のヒルファディング——社会主義と帝国主義」（北海道大学『経済学研究』第29巻1号、1979年3月）。

「ドイツ11月革命とヒルファディングの社会化論」（1）（同上、29-3、1979年8月）

「『金融資本論』と『組織された資本主義』論——方法論的考察」（同上、31-1、1981年6月）

「ドイツ革命初期の社会化論争」（『労働運動史研究』63号、労働旬報社、1980年）

（倉田稔と共編訳）『ヒルファディング・現代資本主義論』新評論、1983年

ヒルファディング「金融資本」概念の再検討（北大『経済学研究』32巻3号、1982年11月）

ドイツ社会化運動とヒルファディング（『金沢大学教養部論集・人文科学篇』第20、1982年）

帝国主義史におけるヒルファディング（『金沢大学教養部論集・人文科学篇』第22巻1号 1985年3月）

ヒルファディング組織資本主義論の諸問題（『金沢大学経済部論集』第24号、1987年3月）

「組織された資本主義」論と『金融資本論』（同23号 1986年3月）

世界大不況下のヒルファディング（『金沢大学教養部論集・人文科学篇』21、198

3 年)

ヒルファディング「組織された資本主義」論の形成過程（『金沢大学教養部論集・人文科学篇』23の2 1985年）

ヒルファディング「組織された資本主義」論再考（同24の1、1986年）

『ヒルファディングと現代資本主義——社会化・組織資本主義・ファシズム』梓出版社、1987年。

「ヒルファディングの経済政策論——『金融資本論』第5篇研究序説」（『金沢大学経済論集』第20号、1983年3月）。

川合一郎

『川合一郎著作集』2、3、有斐閣、1981年9月

「金融資本とは何か」（『経済評論』第6巻2号、1951年；『川合一郎著作集』第1巻、有斐閣、1982年）。

「信用制度と株式会社」（大阪市立大学『経営研究』第109号、1970年；『川合一郎著作集』第4巻、1981年）。

川合一郎『管理通貨と金融資本』有斐閣、1974年（『川合一郎著作集』第6巻、1982年）。

「貨幣・信用論研究30年」（『経済評論』第25巻7号、1976年；『川合一郎著作集』第6巻、1982年）。

「株式会社論争によせて」（大阪市立大学『経営研究』第29巻4・5号、1979年；『川合一郎著作集』第4巻、1981年）。

『株式価格形成の理論』日本評論社、1960年。

河越弘明

「ヒルファディングのナチス体制像」（1）（大阪市立大学大学院『法学雑誌』38巻1号 1991年7月）

川端俊一郎

「先物取引とヘッジング」（『商品先物市場』52/8）

川村 琢

「商品取引所についての一試論」（『経済論集』第20巻第4号、1973年2月）

北原勇

「巨大企業における『所有と支配』」（一橋大学『経済研究』第31巻4号、1980年）。

『現代資本主義における所有と決定』岩波書店、1984年。

『独占資本主義の理論』有斐閣、1977年。

木下悦二

木下悦二編『論争・国際価値論』弘文堂、1959年。

熊谷一男

「独占資本主義段階における商業」（『経営論集』第12巻第1号、1964年7月）  
「ヒルファディング『金融資本』範疇の現実的基盤について」（大野ほか編『ドイツ資本主義の史的構造』有斐閣、1972年）  
『ドイツ帝国主義論』（未来社、1973年）  
「『金融資本』の再検討」（『一橋論叢』第39巻1号、1958年1月）。  
「金融資本の概念」（宇佐美誠次郎・他編『マルクス経済学体系』（Ⅲ）、有斐閣、1966年）。

倉田 稔

『金融資本論の成立——ヒルファディングと帝国主義論史』青木書店、1975年。  
『若きヒルファディング』丘書房、1984年。  
「ドイツを逃れるRヒルファディング」（『人文研究』72、1986年9月）  
「中央ヨーロッパ論」（『国民国家の分裂と統合』北樹出版 1988年所収）  
「ヒルファディングのナチス経済論、一九三三年半ば」（『商学討究』39の2、1988年）  
「[書評]ゴットシャルヒ『ヒルファディング』」（『日本経済新聞』1973年11・6）  
「<研究ノート>第一次世界大戦とヒルファディング——ベルリン時代」（小樽商科大学『商学討究』第27巻2号、1976年）。

久留間敏造

『価値形態と交換過程論』岩波書店、1957年。  
『貨幣論』大月書店、1979年。

呉 天降

『アメリカ金融資本成立史』有斐閣、1971年。

黒滝正昭

『ルードルフ・ヒルファディングの理論的遺産——『金融資本論』から遺稿まで——』（近代文藝社、1995年）  
「[研究ノート]ヒルファディング『金融資本論』における『社会化』論」（東北大学『経済学』第33巻3・4号、1972年）。  
「ヒルファディングの社会化論——権力問題との関連で」（上）（下）（『研究年報経済学』（東北大）35巻4号、36巻1号、1974年）  
「宇野弘蔵氏のヒルファディング批判に対する疑問」（1）（『日本資本主義研究』9、[私的印刷物] 1970年6月）  
「現代ドイツ社会思想史の課題に関する一考察」（『経済学』43-3、1982年1月）  
「Rudolf Hilferding の死因について」（研究年報『経済学』47巻1号 1985年6月）  
「Zur Todesursache Rudolf Hilferdings」（宮城学院女子大学『研究論文集』61号、1984年）  
「ヒルファディングに関する未公開資料について」（経済学史学会47回全国大会、レジュメ）

- 「ヒルファディングの「組織された資本主義」論」（『経済』新日本出版社  
1986年9月号）
- 「Analyse der Weltwirtschaftskrise von Rudolf Hilferding 1931」（研究年報『経済学』  
48巻3号 1986年11月）
- 「[書評]倉田稔『若きヒルファディング』」（『商学討究』36巻1号）
- 「まえがき、Welfried Gottschalch, Rudolf Hilferdings Haltung im ersten Weltkrieg」（宮城学  
院 女子大学『基督教文化研究所研究年報』19/20 1987年3月）
- 「一九四〇年のヒルファディングのソ連邦論——R・L・ウォーホル批判を契機として——」  
（『マルクス主義の生成と発展』梓出版 1989年）
- 「ヒルファディング『金融資本論』の成立一」（『資本論体系』有斐閣月報No.6  
第4巻付録 1990年3月）
- 「『金融資本論』第5編と帝国主義的世界戦争」（『商学論集』59巻6号、199  
1年 7月）

高 哲男

- 「世紀転換期アメリカにおける投資銀行と金融資本（Ⅰ）（Ⅱ）」（広島大学『年報経  
済学』 第1、2巻、1980、1981年）。

河野裕康

- 『ヒルファディングの経済政策思想』（法政大学出版局、1993年）  
（長坂共訳）ピエトラネラ『ヒルファディングと現代』ありえす書房、1980年
- 「西欧の最近のヒルファディング研究」（『経済評論』28-12、1979年12月）
- 「『金融資本論』以前のヒルファディングの帝国主義認識」（『一橋論叢』82-3、  
1979年9月）
- 「金融資本と諸階級——『金融資本論』研究の一視角——」（一橋大学『一橋論叢』  
第85巻第2号、1981年）。
- 「ヒルファディングと大衆ストライキ論争」（同、87-2、1982年2月）
- 「ドイツ社会民主党の国防税論争」（『一橋論叢』89巻3号 1983年3月）
- 「ヒルファディングの第一次大戦観」（『一橋論叢』96巻2号 1986年8月）
- 「第16章 帝国主義の必然性をめぐる論争」（種瀬茂編『現代資本主義論』青木書店、  
1986年、所収）
- 「ドイツ社会民主党の分裂とヒルファディング」（『金城学院大学論集』125号  
1988年3月）
- 「ヒルファディングと中欧思想」（『社会思想史研究』11号 1987年）
- 「第一次大戦期のヒルファディングの通商政策論」（『土地制度史学』第121号  
1988年10月）
- 「金融資本と諸階級——『金融資本論』研究の一視角」（『一橋論叢』第85巻2号、  
1981年）。

古賀英正

- 『支配集中論——米国金融資本の研究』有斐閣、1952年。

越村信三郎

- 越村信三郎編『最近の独占研究』東洋経済新報社、1959年。

ゴスヴァイワー

熊谷一男編訳『現代ファシズムと金融資本』未来社、1977年。

小竹豊治

「近時のイギリス証券市場政策」（『インヴェストメント』第10巻第3号、1957年

4月）

「証券市場構造の類型」（『インヴェストメント』第11巻第1号、1958年1月）

ゴットシャルヒ

『ヒルファディング』（保住・西尾訳、ミネルヴァ書房、1973年）

W・ゴットシャルヒ、（黒滝訳）：ルードルフ・ヒルファデーイングの「歴史的問題」（『経

済学と階級』梓出版社 1987年5月 所収）

同（黒滝訳）：ルードルフ・ヒルファデーイングの組織された資本主義論（『マルクス

・エンゲルス・マルクス主義』1号、1987年10月 所収）  
[報告]ヒルファデーイング組織資本主義論の問題点——1986年11月10日「ヒルファ

デーイングの会」シンポジウム

五島伊知子

「アメリカ大企業の金融支配——D. M. コッツの所論を中心に」（『商学論集』第14号、1979年）。

後藤泰二

「『金融資本論』における株式会社の理解について」（一）（二）（『西南学院大学商学論集』

第9巻第2号、3号、1962年12月、1963年3月）

「金融資本概念における株式会社の理解について」（『西南学院大学商学論集』8-2、1961年12月）

「ヒルファデーイング創業利得論の理解について」1-4（『西南学院大学商学論集』

第10巻第4号、第11巻第1号、1964年3月、6月）

『株式会社経済理論』（ミネルヴァ書房、1970年）

後藤泰二、片山伍一編著

『経営財務論』ミネルヴァ書房、1985年。

『現代株式会社の支配機構』ミネルヴァ書房、1983年。

小西尚志

「ヒルファデーイングの貨幣論と国家」（秋田大学『教育学部研究紀要—人文科学・社会科学』第29集、1979年2月）。

五味久寿

「利子と利潤」（鈴木鴻一郎編『セミナー経済学教室1・マルクス経済学』日本評論社、1974年）。

今野 登

「西ドイツにおけるヒルファディング研究 — 一つの紹介」（『武蔵大論集』第13巻第

1・2号、1965年）

「株式会社の形成にかんする一考察」（『経済学』42、1957年3月）

「株式会社の基礎範疇についての考察」（『武蔵大学論集』7-2・3・4、1960年

11月）

斉藤晴造

『ドイツ銀行史の研究』法政大学出版局、1977年。

坂上孝

「ドイツ革命と社会化論争——ドイツ社会民主党と社会化の挫折」（京都大学『経済論叢』第98巻1号、1966年）。

『社会化の挫折とその思想的根拠——ドイツ社会民主党と社会化の挫折（2）』（京都大学『経済論叢』第98巻1号、1966年）。

坂本 正

「『金融資本論』の基本構成」（『経済論究』〔九大・大学院〕38、1976年12月）

「ヒルファディング『独占形成』論の構造——金融資本論と金融市場（2）——」（九州大学『経済論究』39号、1977年）

「ヒルファディング証券市場論と産業支配の構造」（『証券経済学会年報』11、1976年5月）

「『金融資本論』の基本構成——金融資本と金融市場（1）」（九州大学・院『経済論究』第38号、1976年）。

「『金融資本論』の基本構成——金融資本と金融市場（1）」、同「ヒルファディング『独占形成』論の構造——金融資本と金融市場（2）」（九州大学『経済論究』38、

39号、1976、1977年）。

「金融市場論の理論的展開『金融資本論』を中心に」（『証券経済学会年報』第12号、1977年）。

「『流通信用』と再生産——ヒルファディングにおける商業銀行機能の把握（1）」（九州大学『経済学研究』第43巻4号、1977年12月）。

「『資本信用』と商業銀行——ヒルファディングにおける商業銀行機能の把握（2）」（熊本商科大学『現代経済学の諸問題』、1978年11月）。

「ヒルファディングの信用論と株式会社論」（『金融学会報告』第48号、1980年）。

「金融資本と独占」（『岡山大学経済学雑誌』第14巻第3・4号、1983年）。

向坂逸郎

『マルクスをめぐりて』（日本評論社、1944年）

桜井 毅

「ヒルファディング『金融資本論』」（宇野弘蔵監修『講座・帝国主義の研究』第1巻、青木書店、1973年）

佐合絃一

「金融資本と再生産」（生川栄治編著『現代の金融資本』有斐閣、1976年）。

「アメリカにおける巨大株式会社の形成と財務方策」（大阪市立大学『経営研究』第36巻、第5・6合併号、1986年）

「アメリカ工業証券市場の形成」（大阪市立大学『経営研究』第36巻第4号、1985年）。

「世紀転換期におけるアメリカ商業銀行と投資銀行業務」（大阪市立大学『経営研究』第37巻第5・6合併号、1987年）。

佐々木秀太

「『金融資本論』における株式会社、独占と金融資本」（上）（下）（『立命館経済学』29-6、1981年2月；30-2、1981年6月）

佐藤定幸

「ルドルフ・ヒルファードィング」（『一橋論叢』第47巻、1962年4月）

「『金融資本』概念にかんする一考察」（『経済研究』〔一橋大〕9-2、1958年4月）

佐羽菊次

「ヒルファードィングの『流通信用』と『資本信用』」（『立川短大論集』第18号、1968年3月）

静田 均

「金融資本の概念と本質」（『経済論叢』第77巻第3号）

「ヒルファードィングの帝国主義論」（一）（二）（『経済論叢』第78巻第4号、5号、1956年10月、11月）

志田厚生

「ヒルファードィングにおける『金融資本』の理論構成について」（『研究年報経済学』第33巻第2号、1971年）

柴垣和夫

「自己金融と株式会社」（『証券経済月報』第57号、1964年）。

嶋木和彦

「アメリカ金融資本の現代の特徴——多国籍企業の支配中枢」（『経済』第177号、1979年）。

嶋崎讓

「コミンテルン成立史論」（『唯物史観』第3巻、1966年）。

清水嘉治

「『金融資本』の概念の諸問題」（関東学院大学『経済系』第39号、1958年）。

白川 清

「資本信用と株式会社——資本の所有と機能の分離」上・下（『名城商学』27-3、1977年12月；27-4、1978年3月）

白杉庄一郎

『独占理論の研究』ミネルヴァ書房、1961年。

住ノ江佐一郎

「ヒルファディングにおける株価分析」（『立命館経済学』第10巻第3号、1961年8月）

鈴木喜久夫

「ヒルファディングの信用理論」（『研究年報経済学』第17巻第4号）  
「ヒルファディングの信用理論」（東北大学『経済学』第39号、1955年）。

鈴木鴻一郎

「『創業利得』について——ヒルファディングの株式会社論にたいする一つの疑問——」（矢内原忠男先生還暦記念論文集下巻『帝国主義研究』岩波書店、1959年）。  
「『創業利得』について」（楊井ほか編『帝国主義研究』下巻、岩波書店、1959年）  
「解題——ヒルファディングの金融資本規定を中心にして」（有沢広巳・脇村義太郎著『カルテル・トラスト・コンツェルン』御茶の水書房、1977年）  
鈴木鴻一郎編『帝国主義研究』日本評論社、1964年。

鈴木昭七

『現代帝国主義の理論』青木書店、1968年。

鈴木芳徳

「『金融資本論』における株式会社と銀行」（『商経論叢』第6巻第1号）  
『信用制度と株式会社』新評論、1974年  
『証券経済論』税務経理協会、1979年。  
「わが国における株式会社論の展開」（戦前期）（戦後期）（『経済貿易研究』第6号、1979年；第7号、1980年）。

園田 実

『社会科学への道』（真光社、1947年）  
「二つの世界の経済学の出発点」（神奈川大学『商経法論集』第2巻第3号）  
『金融資本論入門』真光社、1974年

高木幸二郎

『恐慌論体系序説』大月書店、1956年。

高須賀義博

『現代価格体系論序説』岩波書店、1965年。  
高須賀義博編『独占資本主義論の展開』東洋経済新報社、1978年。

高寺貞男

「創業利得と株式資本の水増し」（京都大学『経済論叢』第111巻、第5、6号、  
1973年）。

高橋 清

「ヒルファディング理論における形態規定と内容規定——世界貨幣の方法的論理との関連  
において」（『経済評論』第4巻11号、1955年）。

高橋精之

『商品貨幣論』補論第2章「マルクス以後——マルクス経済学の場合、第1節「ヒルファ  
ディング」」（東京企画センター、1972年）

高山朋子

「企業利得と株式資本の水増し」（『東京経大会誌』第134号、1983年）。

高山 満

「ヒルファディングにおける『理論経済学の問題提起』」（一）（二）（『東京経大会誌』

第25号、26号、1959年11月、1960年1月）

「ヒルファディング恐慌論の基本構造」Ⅰ－Ⅷ（『東京経大会誌』

第27号1960年4月、第28号同7月、第31号1961年4月、

第33号同10月、第35号1962年3月、第40号1963年9月、

第43号1964年10月、第44号1965年1月）

「景気循環と信用」（三）－（六）（『東京経大会誌』第57号1968年3月、  
第60号同11月、第64号1969年11月、第67号1970年8月）

「景気循環と信用」（Ⅶ）（Ⅷ）（『東京経大会誌』71号、1971年2月； 8  
8号、

1974年12月）

「景気循環と信用（Ⅲ）－（Ⅸ）」（『東京経大会誌』第57、60、64、67、7  
1、 88、96号、1968、1969、1970、1971、1974、197  
6年）。

「信用理論における『資本論理視角』と非『資本論理視角』」（同上、97・98、1976年）  
「競争の形態変化と景気循環の変容」（Ⅰ）～（Ⅳ）（『東京経大会誌』75号、76号、84号、85号、1972年、1973年、1974年）  
「ローザ・ルクセンブルグ — 経済学方法論と『資本蓄積論』 — ヒルファディングとの対比において —」（『経済研究』（一橋大経済研究所）第17巻第4号、1966年10月）  
「『金融資本』分析と価値法則」（金子ハルオ・鶴田満彦他編『経済学における理論・歴史・政策』有斐閣、1978年11月）  
「『金融資本論』分析と価値法則——『金融資本』体制の構造分析か、『独占』＝『過渡期』＝『移行期』の『理論』か——」（『経済学における理論・歴史・政策——横山正彦先生還暦記念——』有斐閣、1978年）。  
「エンゲルス論 — 断片 — 「社会化」、「独占」論を中心に —」（『社会労働研究』36巻1号、田代正夫教授退職記念号、1989年）  
「エンゲルスとヒルファディング — 資本主義分析の方法と「社会化」、「独占」論を中心として —」（『立命館経済学』44巻3号、岡崎栄松教授退任記念号、立命館大学経済学会、1995年）  
「ヒルファディングにおける「社会化」の理論問題 — 『金融資本論』を中心として —」（『東京経大会誌』201号、1997年）  
「金融資本の「組織化」論再考」（三）（『東京経大会誌』158号 1988年12月）  
「独占資本主義の動態——恐慌の形態変化と景気循環の変容」（高須賀義博編『独占資本主義論の展開』東洋経済新報社、1978年）。

高山洋一

「中央銀行と管理通貨制による一考察」（『金融経済』204号、1984年）。

佐美光彦

「ヒルファディング」（鈴木鴻一郎編『マルクス経済学講義』2篇、第3章、青林院新社、1972年）  
「ヒルファディング」（鈴木鴻一郎編『マルクス経済学講義』青林書院新社、1972年）。  
「ヒルファディング『金融資本論』」（『経済学批判』4、社会新報社、1979年）  
「ヒルファディングの恐慌形態変化論」（武田隆夫・他編『資本論と帝国主義論』（下）、東京大学出版会、1971年）。  
『世界資本主義』日本評論社、1980年。

田口信夫

「ヒルファディングの『資本輸出論』」（『経営と経済』〔長崎大〕54-4、1975年3月）

武井邦夫

『利子生み資本の理論』時潮社、1972年  
「株式資本論の原理的展開」（『経済理論学会年報』15、1978年）

武田信照

「経済学の対象と経済法則 — C.シュミット、R.ヒルファディング、R.ルクセンブルク、  
N.ブハーリンの見解について —」（1）、（2）、（愛知大学『法経論集』経済  
篇68号、70号、1972年3月、1973年1月）  
「ヒルファディングの貨幣論——貨幣必然性論と紙幣論」（『愛知大学法経論集—経済  
・ 経営篇1』第94・95合併号、1981年3月）。  
『価値形態と貨幣』梓出版社、1982年  
「価値形成論と交換過程論——久留間理論の批判」（上）（中）（下）（『愛知大学法  
経論集 — 経済・経営篇』第75、76、77号、1974、1975年）。

武村孝雄

「ヒルファディング『金融資本論』における『株式会社』論と証券市場」（『商学論纂』  
第12巻第5・6号、1971年3月）  
「ヒルファディング『金融資本論』における『株式会社』論と証券市場」（『中央大学  
商 学部60周年記念論文集』第3分冊、1971年）。  
「信用制度と株式会社」（『経済』第77号、1970年）。

田坂元

「株式会社と資本信用——株式会社の内部構造との関連で」（『東京経大会誌』第5  
9号、1968年）。  
『現代証券市場論』有斐閣、1984年。

田中宏道

「ヒルファディングの『金融資本論』の背景と金融資本概念について」（『立命経済学』  
第25巻第4号、1976年10月）。

田中良明

「第一次大戦中のヒルファディングの帝国主義論」（大阪市立大学『経済学雑誌』第7  
7巻2号、1977年8月）。  
「『金融資本論』第5篇について」（『愛知大学法経論集—経済・経営篇1』第94・  
95合併号、1981年3月）。

溪内謙

『現代社会主義の省察』岩波書店、1978年。

谷口吉彦

「ヒルファディングの恐慌の意義について」（『経済論叢』〔京大〕21-6、192  
5年

12月)

谷田庄三

「金融資本の概念について」（大阪市立大学『経営研究』第56号、1961年）。  
「金融資本と株式資本——とくに岩田説との関連において」（大阪市立大学『経営研究』第76号、1965年）。

田沼肇

田沼肇編『現代の中間階級』大月書店、1958年。

玉井龍象

「金融資本概念をめぐる論争と最近のイギリス金融市場の動向」（S. アーロノヴィッチ著、勝部元・玉井龍象訳『イギリスの金融資本』新評論、1967年）。

塚本健

「ドイツ社会民主党と国有化問題」（『唯物史観』第1巻、1965年）。

辻忠夫

『現代資本輸出論』御茶の水書房、1979年。

鶴田満彦

『独占資本主義分析序論』有斐閣、1972年。

寺園徳一郎

『資本と競争』（ミネルヴァ書房、1968年）

寺田 稔

「擬制資本について」（『立教経済学研究』第25巻3号、1971年）。  
「ヒルファディングの株式会社論についての一考察」（『立教経済学研究』第26巻第2号、1972年7月）。  
「ヒルファディングの創業利得論」（『立教経済学研究』第28巻第1号、1974年5月）。

常磐政治

『現代資本主義分析の基礎理論』日本評論社、1979年。

徳江和雄

「ヒルファディングにおける資本輸出論」（『一橋研究』第14号、1967年）

戸田武雄

「ヒルファデーディング」（『経済学論集』第3巻第3・4号、1933年4月）

戸原四郎

『ドイツ金融資本の成立過程』（東京大学出版会、1960年）

「マルクス経済学の発展のころみ」（三宅義夫・大内力他編『資本論講座7 恐慌・資

本論以後』青木書店、1964年）

『恐慌論』（筑摩書房、1972年）

「ヒルファデーディングの貨幣論の現実的背景——オーストリーの通貨事情との関連性をめぐって」（東京大学『社会科学研究』第28巻4・5号、1977年3月）。

富沢賢治

「『労働の社会化』と労働者階級」（経済理論学会編『現代資本主義と労働者階級』第16集、1979年）。

富塚良三

『増補 恐慌論研究』未来社、1975年。

友岡久雄

「ヒルファデーディングの『恐慌の原因』」（『経済研究』岩波書店、2-1、1925年）

「創業利得の一考察」（『社会科学研究』第10巻第4号、1958年12月）

「貨幣論考」（『唯物史観』第14号、1974年）

トラハテンベルグ

『現代の信用及び信用組織』（川崎訳、そう文閣、1936年）

中尾訓生

「ヒルファデーディングの資本主義発展論に関する一考察」（九州大学『経済論究』第27号、1971年10月）

長岡 豊

「ヒルファデーディングの不比例説と『組織された資本主義』論」（『六甲台論集』第3巻

第4号、1958年12月）

「金融資本とは何か」（『六甲台論集』〔神戸大・大学院〕2-4、1956年3月）

長坂 聡

「金融資本規定における銀行の役割」（『東京教育大学社会科学論集』第6号、1959

年)

「金融資本概念の再検討」(武田隆夫編『帝国主義論』上巻、東京大学出版会、1961年)

「ヒルファディングのカウツキーあての手紙」(『唯物史観』5、1967年11月)

「ベルンシュタインの『金融資本論』の批判をめぐって」(東京大学『社会学研究』第4巻4号、1954年)。

「貨幣論考——ヒルファディングの価値尺度論」(『唯物史観』第14巻、1974年)。

「創業利得の一考察」(東京大学『社会科学研究』第10巻第4号、1958年)。

長島伸一

[書評][『R・ヒルファディング 現代資本主義論』および他](『週刊読書人』)

長島誠一

『独占資本主義の景気循環』(新評論、1974年)

『現代資本主義の循環と恐慌』岩波書店、1981年。

中田常男

『金融資本と独占の理論 ヒルファディング『金融資本論』研究2』(未来社、1993年)

「『金融資本論』の論理構造」(1)～(4)(『商業論纂』[中央大]17-1、1975年5月；17-2、1975年7月；18-1、1976年5月；19-1、1977年5月)

『擬制資本論の理論的展開』未来社、1993年

「金融資本の蓄積様式(I)(II)(III)」(『高知大学学術研究報告』第31巻、第32巻、第35巻、1982年、1984年、1986年)。

中西市郎

『現代国際投資論』ダイヤモンド社、1965年。

中村太和

「マルクス株式会社論に関する一考察」(和歌山大学『経済理論』第166号、1978年)。

中村通義

『株式会社論』亜紀書房、1969年

「株式会社と金融資本」(『経済理論学会年報』15、1978年)

「帝国主義段階論について」(1)(2)(『経済学研究』30-1、1980年3月；30-4、1981年3月)

新島 繁

「金融資本論」(『社会科学文献解題』I、春秋社、1950年)

西田博

「アメリカ独占確立期におけるトラスト形成と『株式水割り』財務方策」（京都大学『経済論叢』第100巻第4号、1967年）

「アメリカ独占確立期における『水割り』財務方策と公表会計事務」（京都大学『経済論叢』第101巻第6号、1968年）

二宮厚美

「再版組織資本主義論の組織的倒錯」（『経済』第202号、1981年）。

野田弘英

「ヒルファディング『金融資本論』の理論的性格について」（九州大学『経済論究』第19号、1966年）

「ヒルファディングの貨幣論に関する一考察——『金融資本論』研究の序説として」（九州大学・院『経済論究』第21号、1968年3月）。

「『金融資本論』の研究」（一）（『経済学研究』第34巻第4号、1968年10月）

「ヒルファディングの金融資本理論の特質」（『金融経済』第127号、1971年）

「ヒルファディングの擬制資本論」（一）（二）（『熊本商大論集』第36・38号、1972年4月・10月）

「『配当と創業利得』について」（『熊本商大論集三〇周年記念論集』1973年）

「ヒルファディングとレーニン」（経済学史学会西南部会編『経済学史研究』ミネルヴァ書房、1973年）

『金融資本の構造——『金融資本論』研究——』新評論、1981年。

「わが国における『金融資本論』の研究の動向」（『証券経済学会年報』13、1978年5月）

「ヒルファディング『金融資本論』の理論的特質」（高木暢哉編著『経済学史の方法と問題』ミネルヴァ書房、1978年）

「ヒルファディングの金融資本理論の特質」（『金融経済』第127号、1971年）。

『金融資本の構造——『金融資本論』研究』新評論、1981年。

[書評]ゴットシャルツヒ『ヒルファディング』（熊本商大『海外事情研究』2巻1号1974年3月）

「独占形成と株式会社」（上・中・下）（『熊本商大論集』46号 1975年：同49号 1976年7月；埼玉大学『社会科学論集』41号 1978年3月）

「金融資本概念に関する一考察」（『海外事情研究』3巻1号 1975年3月）

「ヒルファディングの貨幣・信用理論」（『熊本商大論集』第31号、1970年）。

「貨幣信用に関する一考察」（埼玉大学『社会科学論集』第43号、1979年）。

「『金融資本論』における通貨と信用」（高木暢也編著『現代の貨幣・金融』ミネルヴァ書房、1980年）。

野村昭夫

『世界経済と多国籍企業』東洋経済新報社、1975年。

波多野真

「アメリカ資本主義の類型と段階——スウィージのヒルファディング批判によせて——」（『金融経済』6号、1950年）。

## 服部英太郎

『ドイツ社会政策論史』（上）（『服部英太郎著作集』第1巻、未来社、1967年）。  
『ドイツ社会運動史』（『服部英太郎著作集』第7巻、未来社、1974年）。

## 服部文男

「金融資本把握のための準備的考察」（『経済学』22、1951年10月）  
「階級および階級闘争」（林直道・他編『講座・史的唯物論と現代』第2巻、青木書店、1979年）。  
「『帝国主義』の生成と二つの戦線における闘争」（『経済』第44号、1967年12月 特大号）。  
「『資本論』成立過程における『階級闘争』・『国家』」（原田三郎編『資本主義と国家』ミネルヴァ書房、1975年）。

## 馬場克三

『株式会社金融論』森山書店、1965年（改訂増補版、1978年）。  
「株式会社論争おぼえがき」（『会計』第114巻3号、1973年）。  
「株式会社論に関する覚え書」（『経済学研究』〔九大〕28-2、1962年6月）

## 浜田博男

「擬制資本と信用制度」（大阪市立大学『経済学雑誌』第67巻5・6号、1972年）。

## 林 要

「金融資本講座」（一）－（二三）（『経済評論』（一）1953年10月、（二）同11月、  
（三）同12月、（四）1954年1月、（五）同2月、（六）同4月、（七）同5月、（八）  
同6月、（九）同7月、（一〇）同9月、（一一）同10月、（一二）同11月、（一三）  
同12月、（一四）1955年1月、（一五）同2月、（一六）同3月、（一七）同4月、  
（一八）同5月、（一九）同6月、（二〇）同9月、（二一）同10月、（二二）同11月、  
（二三）同12月）  
『金融資本の理論』（青木文庫、1952年）  
『金融資本』（日本評論新社、1959年）  
『金融資本論入門』（同友社、1948年）、同改訂版（徳間書店、1965年）  
「独塊におけるマルクス経済理論の発展」（『マルクス経済学説の発展』下、改造社（経済学全集27）、1931年）  
「独におけるマルクス経済理論の発展」（『マルクス経済学説の発展』経済学全集27巻 改造社 1931年）  
「独塊におけるマルクス経済理論の発展」（『マルクス経済学説の発展』（下）、改造社、1931年）。  
『金融資本——独占資本主義の運動法則』日本評論社、1959年。

林直道

『景気循環の研究』三一書房、1959年。  
『史的唯物論と経済学』（下）、大月書店、1971年。

春田素夫

「ヒルファディングの信用論について」（一）（二）（新潟大学『法経論集』第14巻  
第3号、第15巻第1号、1965年7月、10月）

ビエトラネラ

長坂聡・河野裕康訳『ヒルファディングと現代』ありえす書房、1980年6月

平瀬巳之吉

『独占資本主義の経済理論』未来社、1959年。

深町郁彌

「信用の必然性」（九州大学『経済学研究』第33巻3・4号、1967年）。  
『所有と信用』日本評論社、1971年。  
「管理通貨制度と信用論（1）（2）」（九州大学『経済学研究』第39巻1—6合併号、  
1974年、第40巻4—6合併号、1975年）。  
「管理通貨と金融資本」（河合一郎編『現代信用論（下）』、有斐閣、1978年）。

藤田国之助

『証券取引制度論』（ダイヤモンド社、1962年）

藤村幸雄

「ヒルファディングの保護関税論」（『経済学批判』2、社会評論社、1977年4月）  
「金融資本概念と帝国主義把握」（『帝国主義研究』Ⅱ、お茶の水書房、1977年）  
「金融資本概念と帝国主義把握—ヒルファディング」（入江節次郎・星野中編著『帝国主  
義研究Ⅱ』御茶の水書房、1977年）。

降旗節雄

『帝国主義論の史的展開』（現代評論社、1972年）  
「ヒルファディングのカルテル保護関税論」（『講座 帝国主義の研究』1、青木書店、  
1973年）  
「ヒルファディングの『金融資本論』」（『マルクス経済学の理論構造』筑摩書房、  
1974年）  
『宇野理論の解明』三一書房、1973年。

古沢友吉

「ヒルファディング『金融資本論』の現代的意義」（越村信三郎・他編『独占資本論へ

の道——現代資本主義への理論的接近』同文館、1969年)。  
「ヒルファディングの『利率』について」(横浜市立大学『横浜大学論集』第4巻3・4合併号、1952年12月)。  
「『金融資本論』に関する一研究」(『一橋論叢』1953年9月)  
「ヒルファディング『金融資本論』の出発点について——『金融資本論』研究(1)」(横浜市立大学『横浜大学論叢』第7巻3号、1956年3月)。  
「ヒルファディングの貨幣論——『金融資本論』研究(2)」(横浜市立大学『横浜大学論叢』第9巻2号、1957年11月)。  
「ヒルファディング『金融資本論』の経済学史上の位置づけ」(一)(二)(『横浜大学論叢』第13巻第1号、同3・4合併号、1962年3月)  
「ヒルファディング『金融資本論』の総体的考察」(古沢編『現代資本主義論への道標——ヒルファディング『金融資本論』を基軸として』三嶺書房、1990年)  
「独占資本の発展について」(『経済と貿易』[横浜市立大]57、1953年2月)  
「マルクス経済学の系譜」(越村信三郎編『最近の独占研究』東洋経済新報社、1959年)  
「『金融資本論』に関する一研究——ヒルファディングの信用論を中心として」(『一橋論叢』第29巻第2号、1953年)。  
古沢友吉・他編『講座・経済学史』(IV)同文館、1977年。  
古沢友吉編著『現代資本主義論への道標』三嶺書房、1990年。

別府正十郎

「株式プレミアムと創業利得」(一)(二)(『経済学研究』第25巻第2号、4号)  
「資本剰余金」(『金融論講座』3、有斐閣、1965年)  
『資本金の経済理論』森山書店、1959年。

星野 中

「『ノイエ・ツァイト』誌におけるR・ヒルファディング」(一)(『経済学雑誌』第61巻第5号、1969年11月)  
「ヒルファディング『金融資本論』の基本的構造とその問題点」(内田義彦・小林昇編『資本主義の思想構造』岩波書店、1968年)  
「帝国主義論史における継承と飛躍——降旗説における世界資本主義論的系譜を中心に——」(『経済学雑誌』71巻6号、1974年)  
「帝国主義論史における継承と飛躍」(大阪市立大学『経済学雑誌』第72巻2号、1975年)。  
「帝国主義論史における「社会化」論的系譜(1)～(3)——降旗氏の所説をめぐって——」(『経済学雑誌』72巻2号～3号、73巻1号)  
「帝国主義論史における『社会化』論的系譜」(1)(大阪市立大学『経済学雑誌』第72巻2号、1975年)。  
「帝国主義と資本制生産の歴史性(1)——ドイツ社会民主党における帝国主義認識の側面——」(『経済学雑誌』63巻4号、1970年)  
「マルクス経済学の発展」(杉原・真実編『経済学形成史』第3章、2「ヒルファディング金融資本論」ミネルヴァ書房、1971年)  
「資本主義発展の歴史的傾向と新段階——マルクス・エンゲルス」(入江節次郎・星野

中 編著『帝国主義研究』(Ⅱ)、御茶の水書房、1977年)。  
「ドイツ資本市場の分析——鉄鋼業株を中心とする産業株式取引の発展とその構造——」(東京大学『経済学研究』第5号、1965年)。  
「ヒルファディングの株式市場論——『金融資本論』における事実認識と歴史理論——」(大阪市立大学『証券研究年報』第5号、1990年)。

星野中・入江節次郎他

『帝国主義論の方法——諸理論の分析と展望——』(「社会科学」(同志社大学人文科学研究所)別冊、1969年)

星野中・入江節次郎編

『帝国主義研究Ⅰ 帝国主義論の方法』(お茶の水書房、1973年)  
『帝国主義研究Ⅱ 帝国主義論の古典的学説』(お茶の水書房、1977年)

保住敏彦

「ドイツ社会民主党と関税問題」(『西洋史学』第78号、1968年)  
「ヒルファディングの帝国主義論」(同志社大学人文科学研究所『社会科学』第4巻2号、1971年)。  
「ヒルファディング研究の動向」(『季刊・社会思想』第2巻第4号、1973年2月)  
『ヒルファディングの経済理論』(梓出版社、1984年)  
「組織化と国家計画——ヒルファディングとポロックをめぐって——」(『愛知大学経済論集創立50周年記念特輯』143号、1997年)  
「マルクス経済学と帝国主義論争」(『セミナー経済学教室』2、日本評論社、1974年)  
「帝国主義論争におけるカウツキーとヒルファディング」(『経済理論学会年報』13、1976年)  
「帝国主義と金融資本」(講座『経済学史』同文館、1977年)  
「ヒルファディング「価値論」の特質」(『社会科学の方法と歴史』ミネルヴァ書房、1978年)  
「書評 倉田稔『金融資本論の成立——ヒルファディングと帝国主義論史』」(『商学討究』〔小樽商大〕26-3、1975年12月)  
「西ドイツにおける帝国主義研究の動向」(『社会思想史研究』社会思想史学会年報、北樹出版、1979年)  
「ヒルファディングの組織資本主義論——その展開と特徴」(『愛知大学法経論集——経済・経営篇Ⅰ』第91号、1979年)。  
「利潤率低下論の歴史とヒルファディングの独占形成論」(同上、96、1981年8月)  
「『金融資本論』執筆時のヒルファディング——ヒルファディングのカウツキー宛の手紙(1902-1907)を中心に」(1)(同上、97、1981年11月)  
[書評]倉田稔『金融資本論の成立』(『商学討究』26巻3号)  
『金融資本論』執筆時のヒルファディング(2)(『法経論集 経済・経営篇1』1同、98号、1982年1月)  
資本蓄積論の歴史と金融資本の蓄積様式(1)(同、100号、1982年11月)  
ヒルファディングの独占形成論と独占資本主義の研究(同、115号、1987年)

12月)

「ヒルファディングの帝国主義論」(同志社大学人文科学研究所『社会科学』第4巻2号、1971年)。

細川元雄

「特殊文献目録編集に関する問題点」(『経済資料研究』(三)、1970年9月)  
「わが国のヒルファディング文献史の一駒——福田徳三と河上肇」(『品野台』〔名古屋  
学院大附属図書館月報〕5-2、1972年4月)

本間要一郎

「金融資本にかんする若干の諸問題」(『経済』第144号、1967年)。  
「ヒルファディングの『独占』理論」(一橋大学『経済研究』第21巻4号、1970年)。  
「独占のない帝国主義論」(見田石介・横山正彦・林直道編『マルクス主義経済学の擁護』新日本出版、1971年)。  
『競争と独占』新評論、1974年。  
『現代資本主義分析の基礎理論』岩波書店、1984年。

溝田誠吾

『アメリカ鉄鋼独占形成史』御茶の水書房、1982年。

松井安信

『信用貨幣論研究』日本評論社、1970年。  
「ガルブレイスの産業国家論」(大内兵衛・向坂逸郎監修『大系国家独占資本主義』①、河出書房新社、1970年)。  
『マルクス信用論と金融政策』ミネルヴァ書房、1973年。  
「景気変動と信用」(松井安信・他編『信用と外国為替』ミネルヴァ書房、1978年)。  
「ヒルファディングの信用(制度)論——一般的規定と変動的規定——」(松井安信・三木毅編著『信用と外国為替』ミネルヴァ書房、1978年)。  
松井安信編著『金融資本論研究』北海道大学図書刊行会、1983年。

前田豊昭

「ヒルファディングの恐慌理論について」(広島大学『工業経営』第7巻1号、1957年2月)。  
「独占資本主義と恐慌」(京都大学『経済論叢』第108巻第6号、1971年)

前田満彦

『独占資本主義分析序論』有斐閣、1972年。  
「金融資本の概念についての覚書」(中央大学『商学論集』第13巻1・2・3合併号、1972年)。  
「平均利潤法則と独占」(佐藤金三郎・他編『資本論を学ぶ』(IV)、有斐閣、1977年)。

松石勝彦

『資本論の方法』青木書店、1987年。  
『独占資本主義の価格理論』新評論、1972年。

松岡利道

「マルクス経済学の展開」（羽鳥・吉田編『経済学史』世界書院、1979年6月）  
「帝国主義論の学説史的研究——ドイツ社会民主党を中心に」（『経済学史学会年報』  
第13号、1975年）。

松村一人

『弁証法と過渡期の問題』法政大学出版局、1967年。

松葉正文

「ドイツ社会民主主義者の社会化構想」（季刊『科学と思想』29、新日本出版社、  
1978年7月）

マルコフ

「ヒルファデーディングによって『仕上げられたる』マルクスの信用理論」（河野訳『貨幣  
及信用理論』共生閣、1931年）

南克己

「『資本論』体系の発展としての『帝国主義論』」（宇佐美誠次郎・他編『マルクス経  
済学大系』（Ⅲ）、有斐閣、1966年）。

美濃部亮吉

「ヒルファデーディング『金融資本論』」（『エコノミスト』44-24、1966年6  
月）

宮川 実

「マルクス主義の基本的な考え方」（『マルクスに代る学説・20集』自由国民社、  
1950年）

三宅義夫

『マルクス信用論体系』日本評論社、1970年。

宮崎犀一

「金融資本概念の現代的意義」（『経済評論』第17巻7号、1968年）。

宮本義男

『金融資本への道』（ミネルヴァ書房、1962年）

三好正巳

「ヒルファディングの『株式会社論』に関する覚え書」（『経済論究』第14号、1963年10月）  
「企業連合についての覚え書」（『商経論叢』第14号、1965年10月）

三輪悌三

「金融資本論」（『現代帝国主義講座』V、日本評論新社、1963年）

村尾 質

「独占価格論研究への一考察」（今井則義・他編『現代経済と国家』（下）、日本評論社、1979年）。

村岡俊三

『マルクス世界史場論』新評論、1973年。

元田厚生

「ヒルファディングにおける『金融資本』の理論構成について」（東北大学『経済学』第33巻第2号、1971年）。

森岡孝二

『独占資本主義の解明』（新評論、1979年11月）  
『独占資本主義の解明』[増補新版] 新評論、1987年。  
「金融資本論争——スウィーージーの金融資本否定論をめぐって」（島恭彦監修『講座・現代経済学』（V）、青木書店、1981年）。

森岡敬史

「「金融資本論」と帝国主義研究の方法」（『社会経済研究』7号、1979年11月）

森戸辰男

『最近ドイツ社会党史の一齣』同人社、1924年

八木紀一郎

「オーストリアにおける貨幣経済論の胎動——ミーゼス、シュンペーター、ヒルファディング——」（『思想』第748号、1986年）。

山口定

『現代ファシズム論の諸潮流』有斐閣、1976年。

『ファシズム』有斐閣、1979年。

山田隆士

「資本輸出論に関する覚え書」（中央大学『商学論纂』第15巻1号、1964年）。

山本国雄

「独占と信用制度について」（『金融経済』15号、1952年）。  
「再び独占と信用制度について」（『金融経済』22号、1953年）。

山本佐門

『ドイツ社会民主党とカウツキー』北海道大学図書刊行会、1981年。

山本幹夫

「一九世紀末『大不況期』の過剰資本と生産の集積——ドイツ石炭・鉄鋼業を事例として——」（『立命館経済学』第24巻第3号、1975年）。

楊枝嗣朗

「株式会社の成立——法人格、有限責任制確立の必然性」（『佐賀大学経済論集』第9巻 1・2・3号、1977年）。

横山正彦

『経済学の基盤』（東京大学出版会、1955年）  
「ヒルファディングの生涯と著作——一つの歴史的教訓」（『思想』第335号、1952年；『経済学の基盤』東京大学出版会、1955年）。

吉家清次

『利潤論』同文館、1974年。

吉信肅

「国際経済における国家範疇をめぐって」（『国際経済』第18号、1967年）。

吉村達次

『恐慌論の研究——循環と変動の理論』三一書房、1961年。  
『経済学方法論』雄渾社、1966年。

米川紀生

「Hilferding 理論の根底にあるもの」（『一橋研究』第16号、1969年）  
「Rudolf Hilferding の社会化論——R. Hilferding 研究（1）」（『一橋論叢』第64巻第1号、1970年7月、および、『新潟大学経済論集』第9号1971年2月、第11号）

1972年1月、同第16号1974年)  
「Rudolf Hilferding の『金融資本論』書評について」 (『新潟大学経済論集』第10号、  
1971年5月)  
「Rudolf Hilferding の全体主義的国家論」 (『新潟大学経済論集』17、1974年7月)

米田 貢

「金融資本概念と『融合・癒着』」 (『大阪市大論集』37、1981年4月)  
「ヒルファディング『金融資本論』批判」 (『経営研究』〔大阪市大〕32-3、  
1981年9月)

米田康彦

「独占価格と価値法則」 (一) (二) (三) (福島大学『商学論集』第41巻7号、  
1974年；第44巻3号、1976年；第46巻3号、1977年)。  
「独占価格論の課題と方法」 (『経済』156号、1977年)。

ローゼンベルグ

『資本論注解』第2巻、1、緒論第7節 (旧訳、第七書房、1951年)

和歌山大学経済学部

現代社会における国家と企業 [1984年]

渡辺俊三

「ヒルファディングの独占と中小企業の理論」 (『立教経済学論集』12、1978年  
2月)